ULTRUS™

将来を見据えたESGソフトウェア：一歩先を行くための10の必須要素

初版、2024年11月

始めましょう

UL Solutions

© 2024 UL LLC. All rights reserved.

目次

第1章 03

はじめに 03

ESG規制 05

任意基準やフレームワークへの取り組み 08

スコープ1、2、3の排出量に関するレポーティング 10

ESGデータの管理およびレポーティングソフトウェア 11

第2章 12

ESGソフトウェアプラットフォームに不可欠な10の必須要素 12

第3章 16

UL SolutionsのESGソフトウェアとサービスが選ばれる理由 16

出典 17

UL SolutionsおよびUL Solutionsのロゴは UL LLC © 2024の商標であり、全ての権利がUL LLCに帰属します。本書の複製は、UL Solutions LLCの書面による許可がない限り認められず、複製を許可された場合でも全文そのままの形で行う必要があります。
本書は一般的な情報提供のみを目的としており、法律やその他の専門的な助言を提供するものではありません。本書で提供している情報は、発行日時点での当社の知識、情報および見解の範囲内においてのみ、正確なものです。

ULTRUS™

第1章
はじめに
ESG規制
任意基準やフレームワークへの取り組み
スコープ1、2、3の排出量に関するレポーティング
ESGデータの管理およびレポーティングソフトウェア
第2章
ESGソフトウェアプラットフォームに不可欠な10の必須要素
第3章
UL SolutionsのESGソフトウェアとサービスが選ばれる理由
出典

はじめに

環境、社会、ガバナンス（ESG）のパフォーマンスは、世界中の企業や組織にとってますます重要になっています。規制の強化とステークホルダーの強い要請を受けて、投資家や顧客、その他のステークホルダーが投資、提携、購買の意思決定を行う際に参考となる情報を提供するため、より厳格なESGレポートの作成と開示が求められています。組織が進捗状況を追跡し、最終的にサステナビリティ目標を達成するためには、組織内における信頼性の高いESGパフォーマンスデータが不可欠となっています。

ESGレポートとサステナビリティレポートは、よく同等のものとして扱われます。サステナビリティに関する外部向けの報告には、重要な項目として、ESGパフォーマンス、企業の社会的責任（CSR）、資産管理や分析、そして評判やコンプライアンスリスクなどが含まれます。サステナビリティレポートとESGレポートにはどちらも、定性情報と定量情報を組み合わせた情報を盛り込むことが求められています。

UL Solutions

第1章
はじめに
ESG規制
任意基準やフレームワークへの取り組み
スコープ1、2、3の排出量に関するレポーティング
ESGデータの管理およびレポーティングソフトウェア
第2章
ESGソフトウェアプラットフォームに不可欠な10の必須要素
第3章
UL SolutionsのESGソフトウェアとサービスが選ばれる理由
出典

ESGレポートを含むサステナビリティレポートは、「あったら便利なもの」から「なくてはならないもの」へと変化してきています。組織は、厳しさを増す規制要件に対応するため、さらにはそれを先取りするために、データ管理業務のギャップを埋める技術的ソリューションを導入する必要があります。ESGレポーティングの義務化（欧州連合（EU）の企業サステナビリティ報告指令（CSRD）など）や、国際サステナビリティ基準審議会（ISSB）が策定する開示基準に基づく報告の義務化が予測される中、企業は従来の財務報告と同様に厳格な審査に耐えうるESGデータを備える必要があります。[1]このように高い正確性と透明性が求められ、報告要件の適用範囲や複雑さも増大していることから、企業はスプレッドシートのような従来のデータ管理方法から、信頼性が高く自動化されたESGレポーティングソフトウェアへの移行を余儀なくされています。

第1章
はじめに
ESG規制
任意基準やフレームワークへの取り組み
スコープ1、2、3の排出量に関するレポーティング
ESGデータの管理およびレポーティングソフトウェア
第2章
ESGソフトウェアプラットフォームに不可欠な10の必須要素
第3章
UL SolutionsのESGソフトウェアとサービスが選ばれる理由
出典

ESG規制

欧州連合（EU）の規制

欧州連合（EU）は、拡大されたサステナビリティ目標の達成に向けて積極的に取り組んでおり、この目標達成を支援するためにESGレポーティングを義務づけています。2023年1月に、企業サステナビリティ報告指令（CSRD）が施行され、この新しい指令により、従来の非財務情報開示指令（NFRD）の適用範囲と要件が大幅に拡大されました。CSRDは、EU域内の企業に対し、「社会的および環境的な問題から生じるリスクと機会に関する情報、ならびに事業活動が人々や環境に与える影響に関する情報を開示すること」を義務付けています。[2]NFRDの対象となる大企業は、2024会計年度に収集したデータを基に2025年に報告を行う必要があり、EU域内で事業を営む中小企業やEU域外の企業については、2028会計年度までに段階的に遵守することが求められます。NFRDの対象となるのは約11,700社であり、2028年にCSRDが完全に施行されると、約50,000社が対象になると推定されています。[3]また、CSRDは、企業のサステナビリティに関するパフォーマンスを財務業績とともに開示することを要求しています。これは、投資家やその他のステークホルダーが、企業の業績を財務および非財務面の両面から把握することを重視する姿勢を示しています。このため、ESGデータは正確で監査対応可能かつタイムリーであることが求められます。

欧州サステナビリティ報告基準（ESRS）は、2024年1月に発効されました。ESRSの目的の1つは、「投資家が、投資する企業のサステナビリティへの影響を理解するための情報を提供する」ことです。[4]ESRSは、CSRDで要求される報告の適用範囲を定義する基準です。ESGに関する幅広い課題を網羅していますが、企業は自社の事業にとって重要な項目のみを報告することが求められます。CSRDでは、ダブルマテリアリティに基づいて重要性が決定されます。すなわち、あるトピックが企業の財務業績や展望に重大な影響を及ぼすか、あるいは企業の事業活動によって重大な影響を受ける場合に、そのトピックが重要であることを意味します。[5]

第1章
はじめに
ESG規制
任意基準やフレームワークへの取り組み
スコープ1、2、3の排出量に関するレポーティング
ESGデータの管理およびレポーティングソフトウェア
第2章
ESGソフトウェアプラットフォームに不可欠な10の必須要素
第3章
UL SolutionsのESGソフトウェアとサービスが選ばれる理由
出典

米国連邦規則

米国においても、ESGパフォーマンスへの関心が高まっています。2024年、証券取引委員会（SEC）は、「気候関連事項のリスクと影響に関連する公開会社の情報開示を強化するために」[6]新しい気候開示規則を採択しましたが、法的な審議が続いているため、実施は一時停止されています。[7] CSRDと同様に、SECの気候開示規則においても、ESGデータを含むサステナビリティのデータを財務報告に統合することが義務付けられているため、そのレポートは財務報告と同様の高い基準に準拠する必要があります。SECが気候開示規則の施行を一時停止している状況ではあるものの、今こそ、企業がESGレポーティングおよびデータ管理ソフトウェアを積極的に導入すべき時です。

米国の州規制

米国の一部の州は、連邦政府のペースに先駆けて、ESGレポーティングおよび開示を主導しています。複数の州が、「企業に報告義務を課すことにより、自社の影響に対する説明責任をより明確にすること」を目的とした開示法案を導入または成立させています。[8]

第1章
はじめに
ESG規制
任意基準やフレームワークへの取り組み
スコープ1、2、3の排出量に関するレポーティング
ESGデータの管理およびレポーティングソフトウェア
第2章
ESGソフトウェアプラットフォームに不可欠な10の必須要素
第3章
UL SolutionsのESGソフトウェアとサービスが選ばれる理由
出典

カリフォルニア州

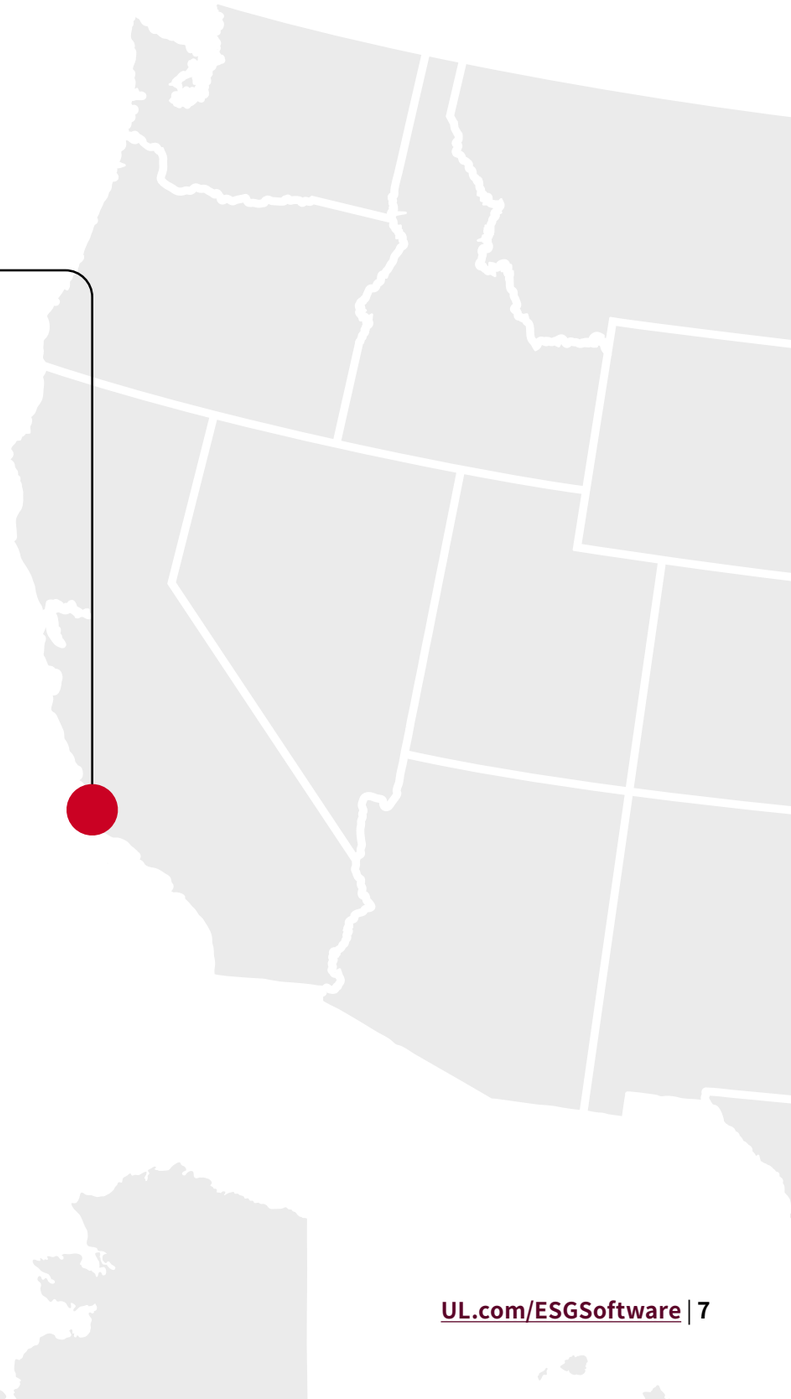
2023年、カリフォルニア州は、気候の情報開示および財務報告に関する2つの重要な法律を制定しました。

- 上院法案（SB-253）企業気候データ説明責任法（Climate Corporate Data Accountability Act）
- 上院法案（SB-261）温室効果ガス：気候関連財務リスク法（Greenhouse Gases: Climate-Related Financial Risk Act）

SB-253の下、カリフォルニア州大気資源局（CARB）が2025年1月1日までに新しい規則を策定・採択する責任を負います。スコープ1および2の排出量報告は2026年に開始され、スコープ3の排出量報告は2027年に開始される予定です。SB-261にも同様の報告スケジュールが適用されます。

2024年秋、SB-253およびSB-261の改正案がカリフォルニア州議会でSB-219として成立しました。SB-219では、SB-253およびSB-261に関連する改正内容として、CARBがSB-253の施行に必要な規則を策定・採択する期限が延長されました。[9]また、スコープ3（間接的）排出量の報告時期については、若干緩和されたものの、当初の提案通り2027年に開始される予定です。[10]

企業にとっては、連邦レベルでの施行が遅れており、州レベルでは対応が定まっていない今こそ、規制が施行された際にスムーズに報告の準備が整えられるよう、ESGデータ管理ソリューションを迅速に整備・導入するチャンスです。



第1章
はじめに
ESG規制
任意基準やフレームワークへの取り組み
スコープ1、2、3の排出量に関するレポーティング
ESGデータの管理およびレポーティングソフトウェア
第2章
ESGソフトウェアプラットフォームに不可欠な10の必須要素
第3章
UL SolutionsのESGソフトウェアとサービスが選ばれる理由
出典

任意基準やフレームワークへの取り組み

サステナビリティの基準とフレームワークは異なりますが、それらは相互補完的であり、多くの場合、併用することを前提に設計されています。サステナビリティの基準は、「指標を含む各トピックの報告すべき内容に関して、具体的で詳細かつ再現可能な要件を提供する」ものであり、サステナビリティのフレームワークは、「情報をどのように構造化して準備し、どれくらい広範囲のトピックを取り扱うかに関して、原則に基づくガイダンスを提供する」ものです。[11]

ULTRUS™

第1章
はじめに
ESG規制
任意基準やフレームワークへの取り組み
スコープ1、2、3の排出量に関するレポーティング
ESGデータの管理およびレポーティングソフトウェア

第2章
ESGソフトウェアプラットフォームに不可欠な10の必須要素

第3章
UL SolutionsのESGソフトウェアとサービスが選ばれる理由

出典

サステナビリティに関する任意基準やフレームワークを持つ組織の例：

- 国際財務報告基準（IFRS）国際サステナビリティ基準審議会（ISSB）（IFRS ISSB）
- CDP（旧名称：カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト）
- 科学に基づく目標設定イニシアチブ（SBTi）
- グローバル・レポーティング・イニシアチブ（GRI）
- サステナビリティ会計基準審議会（SASB）
- 国連 持続可能な開発目標（U.N.SDGs）

これらの基準は任意であるにもかかわらず、多くの組織がこれらの任意のサステナビリティ開示基準に基づいて報告するようになっており、多くの国や地域では、義務的な報告に関する法律を制定する際に、これらの基準を法律の基礎として採用しています。サステナビリティの基準やフレームワークに基づく開示報告を行っている企業は、今後法制化される報告要件にも十分な準備が整っていると言えます。

注意：IFRS ISSBは任意のフレームワークですが、いくつかの国（英国、カナダ、日本、オーストラリア、ブラジル、中国、シンガポール、香港、韓国など）では、現地の基準の基礎として使用するか、現地の基準との整合が検討されています。[12]

ISSBの基準をすでに採用している、または法律や規制のフレームワークを導入しようとしている20以上の国や地域は、世界の国内総生産（GDP）の約

55%

を占めています。[13]

第1章
はじめに
ESG規制
任意基準やフレームワークへの取り組み
スコープ1、2、3の排出量に関するレポーティング
ESGデータの管理およびレポーティングソフトウェア
第2章
ESGソフトウェアプラットフォームに不可欠な10の必須要素
第3章
UL SolutionsのESGソフトウェアとサービスが選ばれる理由
出典

スコープ1、2、3の排出量に関するレポーティング

これまで、基準やフレームワークでは、企業が直接管理している排出源を示すスコープ1とスコープ2の排出量の報告に重点が置かれてきました。しかし近年、スコープ3の排出量に注目が集まっています。例えば、スコープ3の排出量報告はCSRDで義務付けられており、また、ISSB-IFRS S2やカリフォルニア州の気候規則の下でも、今後数年以内に義務化される予定です。

スコープ1排出量：
「組織によって管理または所有されている排出源から発生する直接的な温室効果ガス（GHG）の排出量（ボイラー、炉、車両の燃料燃焼に関連する排出量など）」[14]

スコープ2排出量：
「電気、蒸気、熱、または冷却の購入に関連する間接的な温室効果ガス（GHG）排出量」[15]

スコープ3排出量：
「自社の所有資産、管理資産ではなく、バリューチェーンにおける活動を通じて組織が間接的に影響を与える資産から生じる排出量」（上流および下流の活動を含む）[16]

スコープ3の排出量、いわゆるバリューチェーン排出量は、多くのケースで組織全体の温室効果ガス（GHG）排出量の大部分を占めています。

一般的に、スコープ3排出量は、企業の総カーボンフットプリントの大部分（70%以上）を占めています。[17]

第1章
はじめに
ESG規制
任意基準やフレームワークへの取り組み
スコープ1、2、3の排出量に関するレポーティング
ESGデータの管理およびレポーティングソフトウェア
第2章
ESGソフトウェアプラットフォームに不可欠な10の必須要素
第3章
UL SolutionsのESGソフトウェアとサービスが選ばれる理由
出典

ESGデータの管理およびレポーティングソフトウェア

社内外のステークホルダーからの強い要請と、ますます複雑化する規制環境の影響を受けて、ESGのレポーティングおよびデータ管理ソフトウェアは以下の実現に向けて急速に進化しています。

- 大量のデータ収集と管理
- 収集したデータの監査サポート
- さまざまな自主的および義務的フレームワークに基づいたレポート作成
- ビジネス上の意思決定の支援[18]

義務化されたESGレポーティングのためのデータ管理は、ますます複雑化しています。ESGデータ管理ソフトウェアを活用することで、サステナビリティ担当チームは時間を節約でき、企業のサステナビリティ向上のためにもっと多くの時間を費やすことができます。また、ESGデータ管理ソフトウェアは、チームのパフォーマンス向上、エラーのリスク軽減、データの監査可能性の向上にも役立ちます。ESGソフトウェアを導入すれば、効率が改善され、従来のデータ収集や管理方法では難しかった指標に関する報告の実現が期待されます。

第1章
はじめに
ESG規制
任意基準やフレームワークへの取り組み
スコープ1、2、3の排出量に関するレポーティング
ESGデータの管理およびレポーティングソフトウェア
第2章
ESGソフトウェアプラットフォームに不可欠な10の必須要素
第3章
UL SolutionsのESGソフトウェアとサービスが選ばれる理由
出典

ESGソフトウェアプラットフォームに不可欠な10の必須要素

1. 柔軟なソフトウェア

ESGのデータ管理とレポーティングは複雑であり、各企業の事業運営やサステナビリティのフットプリントに合わせてカスタマイズする必要があります。この複雑さに対応するためには、ソフトウェアが、ESG基準の主要な指標に加えて、企業の構造や報告要件に対応できるかどうかを確認することが重要です。このような要件には、標準的なソリューションだけでは対応できない場合が多いため、設定の調整が必要となることがあります。柔軟性が高いソフトウェアは、組織内で発生する可能性のある内部または外部の変更にも適応できるため、組織は迅速に対応し、進化し続ける報告要件に遅れることなく対応できます。

2. 外部機能との連携

組織のESGニーズを満たすソフトウェアを選ぶ際には、既存のプラットフォーム（基幹システム（ERP）や人事系システムなど）と簡単に連携できるものを選ぶことが重要です。既存のプラットフォームやシステムと容易にかつシームレスに連携できれば、データ収集にかかる労力を大幅に削減し、レポートの内容や組織のサステナビリティ向上に専念することができます。

3. サービスとサポート

ESGデータ管理およびレポーティングソフトウェアの分野で豊富な実績があり、能力とリーダーシップが評価されているプロバイダーを選びましょう。提供されているサポートの種類やレベルを調査し、プロフェッショナルサービスや実装サービス、さらにアドバイザリーサービスの内容を確認することも重要です。専任のプロフェッショナルチームおよび実装サービスチームがいるソフトウェアプロバイダーであれば、ソフトウェア使用中に問題が生じても、対応がスムーズです。また、優れたアドバイザリーチームがいれば、ESGレポーティングプログラムを加速させる支援や、ソフトウェアを最大限に活用するための個別のアドバイスやサポートの提供が可能です。

第1章
はじめに
ESG規制
任意基準やフレームワークへの取り組み
スコープ1、2、3の排出量に関するレポーティング
ESGデータの管理およびレポーティングソフトウェア
第2章
ESGソフトウェアプラットフォームに不可欠な10の必須要素
第3章
UL SolutionsのESGソフトウェアとサービスが選ばれる理由
出典

4.
ESG情報開示の準備

ESGのフレームワークが成熟し、世界中で施行されるにつれて、ESG開示報告はますます複雑化しています。そのため、ソフトウェアは、複数のレポーティングフレームワーク（CSRD、IFRS　ISSB、CDPなど）に対応できる必要があります。多くの潜在的なフレームワークが存在するため、複数のレポーティングフレームワークに必要なデータを一度に収集できるソフトウェアを選ぶことが重要です。また、データは中央で一元管理され、アクセスしやすく、必要に応じて、さまざまなフレームワークに対してタグ付けされる必要があります。これらを効率化する機能があれば、異なるフレームワークごとにデータの収集や管理を繰り返す必要がなくなり、サステナビリティ担当チームや組織全体で時間を節約することができます。

5.
第三者保証対応データ

データの義務的監査に対応するためには、包括的な監査証跡が必要です。現在、CSRDではデータの監査が求められており、国や地域ごとの要件はさらに増加すると予想されています。自社の信頼性を高め、組織内でのサステナビリティに関する取り組みや透明性の向上に対するコミットメントを示すため、ますます多くの組織が法的要件を超えて第三者によるデータ検証を活用しています。

データの監査可能性と正確性について検討する際、第三者による監査に対応できるデータを生成できるか、例えばアクセスしやすい監査証跡を提供できるかなどを確認して、ソフトウェアを選ぶことが重要です。この機能により、組織の時間を節約し、コンプライアンスリスクを減らすことができます。また、ソフトウェアプロバイダーが正確なデータを提供できる力を有していると信頼できることも重要です。監査対応可能で正確なデータを備えておけば、企業のコスト削減や監査人の負担軽減につながります。

6.
スコープ3のレポーティング

スコープ3に関する報告には大量のデータが含まれます。複数の報告規制がまもなく施行されるため、スコープ3の排出量に対応したソフトウェアを選定することが不可欠です。スコープ3排出量は、出張や事業から出る廃棄物といった15のカテゴリーに分類され、カテゴリー1（購入した製品およびサービス）は、多くの組織において最も大きな割合を占めています。ほとんどの報告基準では、自社の事業に関連するカテゴリーのみを報告することが要求されています。今後の報告要件に適時に対応し、自社の排出量を正確に把握して信頼のおけるサステナビリティ目標を設定するためには、該当するカテゴリー全体でスコープ3のデータ収集が可能な機能を備えたESGレポーティングソフトウェアおよび自社事業に最も関連性が高いカテゴリーに対して充実した支援をできるプロバイダーが必要です。

ULTRUS™

第1章
はじめに
ESG規制
任意基準やフレームワークへの取り組み
スコープ1、2、3の排出量に関するレポーティング
ESGデータの管理およびレポーティングソフトウェア

第2章
ESGソフトウェアプラットフォームに不可欠な10の必須要素

第3章
UL SolutionsのESGソフトウェアとサービスが選ばれる理由

出典

7.
サプライチェーン

多くの国や地域で、サプライチェーンの透明性に関する情報開示法案が制定または導入されています。製造業者、生産者、サプライヤーといったサプライチェーンは、スコープ3データの構成要素であるため、サプライチェーンデータはスコープ3データの収集と関連しています。また、サプライチェーンデータは、排出量の追跡だけでなく、廃棄物や水といった他の環境への影響、社会的影響、ガバナンスに関する課題も対象としています。スコープ3のデータの収集は、サプライチェーンと連携を深めるための出発点として活用できますが、さらに一歩進めるためには、サプライチェーンに直接働きかけ、追加の課題に関する一次データを収集する必要があります。サプライチェーンからデータを収集しない場合、サプライチェーンで問題が明るみに出た際に、顧客からブランドの責任を問われる可能性があるため、組織は社会的および評判上のリスクを負うことになります。そのため、ソフトウェアは、企業のサプライチェーンにおけるESGへの影響（人権、労働慣行、サステナビリティなど）を完全に把握し、規制や社会の期待に応えるために、詳細なサプライヤー情報と環境データを収集・管理できる必要があり、ベンダーの業務や事業活動を効率化し、サプライヤーとの関係管理を支援する機能も備えていることが求められます。

8.
排出係数ライブラリ

排出係数は、排出量インベントリを作成するために長年使用されてきました。排出係数を使用すると、組織の事業活動データから関連する排出量を把握することができます。算出された排出量データが正確であるためには、排出係数が活動内容とその発生場所にできるだけ一致している必要があります。そのため、世界中にさまざまな事業活動を網羅する広範な排出係数が多数存在しています。大規模な組織がソフトウェアを選定する場合は、自社の所在地や事業活動に適した排出係数にアクセスできるソフトウェアを探してください。スプレッドシートを使用して排出量の計算を行っている場合、必要とする排出係数にアクセスできるソフトウェアを選定することで、大幅な時間節約が可能となります。これにより、それぞれの事業活動や場所に適した排出係数を簡単に選択でき、排出係数を常に最新の状態に保つことができます。また、スプレッドシートからソフトウェアへの移行により、排出係数のメンテナンス作業を手動で行う必要がなくなり、計算の維持にかかる管理上の負担が軽減され、エラーのリスクも低減します。排出係数を最新の状態に保つソフトウェアは、データの正確性維持と監査対応にも役立ちます。

第1章
はじめに
ESG規制
任意基準やフレームワークへの取り組み
スコープ1、2、3の排出量に関するレポーティング
ESGデータの管理およびレポーティングソフトウェア
第2章
ESGソフトウェアプラットフォームに不可欠な10の必須要素
第3章
UL SolutionsのESGソフトウェアとサービスが選ばれる理由
出典

9.
ESGプログラム管理

ESGプログラム管理では、ビジネス上の意思決定やESGの影響に関する管理を推進するために、ESG目標の設定と追跡、ならびに重要業績評価指標（KPI）の管理を含めたビジネス戦略を重視します。データ収集だけでなく、目標の管理やESGパフォーマンスの向上をサポートするため、データ整理や管理ができるプログラム管理ツールを含むソリューションを見つけることが重要です。アドバイザリーや検証チームを備えたプロバイダーと連携することで、組織のパフォーマンスや透明性が向上し、リスクの低減や資本へのアクセス向上、さらには収益性の改善にもつながります。

10.
ESGレポーティングソフトウェアを超えて

ESGレポーティングソフトウェアは、組織が取り組みを始めるための優れた出発点ですが、先のことを見越して、ESGレポートにとどまらず、組織全体のサステナビリティへの取り組みを考えておく必要があります。従来のESGを拡張し、環境製品宣言（EPD）、製品のカーボンフットプリント（PCF）検証、脱炭素化サービス、エネルギー転換など、その他のサステイナビリティ指標を含むプロバイダーを選定することが求められます。また、製品の安全性とサステナビリティを向上させ、サプライチェーンへの影響、環境・健康・安全（EHS）、および組織の他の分野にも対応するソフトウェアパッケージの検討も重要です。

第1章
はじめに
ESG規制
任意基準やフレームワークへの取り組み
スコープ1、2、3の排出量に関するレポーティング
ESGデータの管理およびレポーティングソフトウェア
第2章
ESGソフトウェアプラットフォームに不可欠な10の必須要素
第3章
UL SolutionsのESGソフトウェアとサービスが選ばれる理由
出典

UL SolutionsのESGソフトウェアとサービスが選ばれる理由

UL Solutionsは、ESG管理およびサステナビリティソフトウェア市場における業界のリーダーとして認められています。[19]ESGソフトウェアプロバイダーとして20年以上の実績を持つUL Solutionsは、ESGデータ収集の初期段階から、データ収集・管理の効率化を目指す過程、あるいは加速するESGレポーティングや規制要件への対応を目指す企業に至るまで、あらゆる段階で効果的かつ実践的な支援を提供します。UL Solutionsは、ESGアドバイザリーサービスを通じて、企業がESGパフォーマンスの向上を支援するため、実践的で標準に基づいたアプローチを提供しています。また、特定の国や地域の開示要件を満たせるよう、ESGデータや温室効果ガス（GHG）データに関する独立した第三者検証*サービスが利用可能です。

UL 360 ESGおよびサステナビリティソフトウェアは、ESGパフォーマンス管理とレポーティングに対応したカスタマイズ可能なプラットフォームで、報告や開示に必要なデータの収集と管理を支援します。組織の持続可能性への取り組みの現状に対応しつつ、より持続可能で効率的な未来に向けた進展をサポートするように設計された、このUL 360 ESGおよびサステナビリティソフトウェアは、ULTRUS™プラットフォームの一機能を構成しており、さまざまな方法で組織の効率化と成果の向上に向けて支援します。ULTRUS™は、急速に進化する規制、サプライチェーン、サステナビリティにおける課題に対処できるように支援するプラットフォームです。

UL SolutionsはESGソフトウェアのニーズに対応し、一歩進んだサポートを提供します。詳しくは、UL.com/ESGsoftwareをご覧ください

*検証および事前検証サービスは、アドバイザリーサービスとは独立して実施されます。

第1章
はじめに
ESG規制
任意基準やフレームワークへの取り組み
スコープ1、2、3の排出量に関するレポーティング
ESGデータの管理およびレポーティングソフトウェア
第2章
ESGソフトウェアプラットフォームに不可欠な10の必須要素
第3章
UL SolutionsのESGソフトウェアとサービスが選ばれる理由
出典

出典

1. McCrossan. N. (2023). ESG reports will soon require third-party assurance. Here's how to get ready. Retrieved Aug. 12, 2024.
2. European Commission. (n.d.). Corporate sustainability reporting directive. Retrieved July 29, 2024.
3. UL Solutions. (2024). UL Solutions Launches New UL 360 Features and Content to Support Compliance with new EU Sustainability Reporting Requirements. Retrieved July 29, 2024.
4. European Commission. (2024). The Commission adopts the European Sustainability Reporting Standards. Retrieved July 30, 2024.
5. PwC. (n.d.). CSRD – Double Materiality Assessment. Retrieved Sept. 20, 2024.
6. PwC. (2024). SEC adopts climate-related disclosure rules. Retrieved July 29, 2024.
7. Binnie. I. (2024). US SEC stays climate disclosure rule amid legal challenges. Retrieved Sept. 9, 2024.
8. Retail Compliance Center (RCC). (2024). ESG Disclosure Bills Introduced to States. Retrieved July 29, 2024.
9. Beveridge & Diamond. (2024). California to Require Climate Disclosures from Large Companies (Updated). Retrieved Sept. 24, 2024.
10. Segal. M. (2024). California Governor Signs Climate Disclosure Bill into Law with 2026 Start Date Intact. Retrieved Oct. 2, 2024.
11. IFRS Foundation. (n.d.). SASB Standards and other ESG frameworks. Retrieved July 31, 2024.
12. Goldstein. E. (2023). 5 things to know about the new ISSB reporting standards. Retrieved Aug. 9, 2024.
13. IFRS. (2024). Jurisdictions representing over half the global economy by GDP take steps towards ISSB Standards. Retrieved Sept. 9, 2024.
14. United States Environmental Protection Agency. (2024). Scope 1 and Scope 2 Inventory Guidance. Retrieved July 31, 2024.
15. United States Environmental Protection Agency. (2024). Scope 1 and Scope 2 Inventory Guidance. Retrieved July 31, 2024.
16. United States Environmental Protection Agency. (2024). Scope 3 Inventory Guidance. Retrieved July 30, 2024.
17. Verdantix. (2024). Scope 3 Measurement: Mastering Emissions Reduction Strategies for Net Zero Success (Webinar). Retrieved Aug. 7, 2024.
18. Pransky. J., Wilson. J. and Knickle. K. (2023). Green Quadrant: ESG Reporting And Data Management Software. Retrieved July 18, 2024.
19. Pransky. J., Wilson. J. and Knickle. K. (2023). Green Quadrant: ESG Reporting And Data Management Software. Retrieved Sept. 10, 2024.

ULTRUS™

UL.com/ESGsoftware

UL Solutions

© 2024 UL LLC. All rights reserved.
ES24CS1951040jaJP